現代史としての冷戦

研究者プロフィール

・**国際学部　国際教養学科　教授　三須拓也**

・専門分野　国際関係史
・研究分野　冷戦史
・所属学会　日本国際政治学会ほか
・学位　博士（法学）名古屋大学
・主著『コンゴ動乱と国際連合の危機』（ミネルヴァ書房、2017年）
共著『冷戦史』（法律文化社、2024年）
共訳 サラ・ロレンツィーニ『グローバル開発史』
（名古屋大学出版会、2022年）
オッド・アルネ・ウェスタッド『グローバル冷戦史』（名古屋大学出版会、2010年）

研究内容

なぜ現代世界は「中心」の繁栄と「周縁」の荒廃によって特徴づけられるのでしょうか。世界はどのような歴史を経て現在のような姿になったのか、ということを考えています。これまで、冷戦の時代に大国や国際社会が途上国に対してとった政策の内実やその影響について論文を書いてきました。
例えば世界では、先進国、途上国政治を問わず、今もなお政治的腐敗を確認できますが、これは過去の戦争の歴史と無関係ではありません。戦争状態では平時とは異なる秩序原理が働くからです。冷戦についても同様です。冷戦は、1947年から1989年まで続きましたが、これは平時と戦時の特徴を持つ擬似的な戦争でもありました。この結果、東西両陣営は、直接の軍事衝突を避けつつも、自陣営、相手陣営を問わず、政治家の買収や暗殺、政治宣伝などの非合法かつ秘密の工作を展開したのです。そして、冷戦が終結してから30年以上が経った現在でも、私たちはその熾火（おきび）を、政治経済の諸制度やメディア、文化など、様々なところで確認することができます。しかも、最近の米中摩擦やウクライナ戦争などのように、その火種は再燃しつつあるようです。

関連キーワード

冷戦、国際連合、戦争と開発

地域・産学官連携の可能性

国際政治から身近なニュースまで、現代世界の動向を、中長期的な視点から理解する術をお伝えできるかと思います。過去10年以上にわたって、社会人向けの現状分析の講座を担当していました。コロナ前では、月に2回程度のペースで、国内外のニュースの読み解き方などを教えておりましたが、コロナで一時中断後、2024年から半年に1回程度のペースで再開しています。

研究者への連絡先

産学連携推進センター　E-mail：srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
電話　022-354-8122